Oriental motor

Environmental Report 2011

環境報告書 2011

ごあいさつ

01

私たちオリエンタルモーターは、1885年に手造りのモーターから始まりました。「『ひとを愛する心』『ものを愛する心』を持つ」という基本思想から、お客様が使いやすい商品の開発に力を注ぎ、さまざまな事業へと発展させてまいりました。

2010年度は、既存施設への高効率照明や空調設備の更新などを行うとともに、継続的に製造工程の効率化に取り組んでまいりました。経済環境が好転し売上高は3割以上増えましたが、エネルギー使用の増加分は1割未満にとどめることができ、徐々にエネルギー利用効率改善活動の効果が現れてきております。

2011年度も、私たちオリエンタルモーターはこれまで以上にすべての事業活動が地球環境と密接につながっていることを意識しながら、すべての社会活動を継続してまいります。特に、世界的なエネルギー効率改善の気運が高まっている中、大切な資源やエネルギーの利用効率の改善に寄与する商品を世界中のお客様にお届けしていきたいと考えております。

この報告書が、私たちオリエンタルモーターの環境および社会活動をご理解いただく一助となれば幸いです。今後の活動に対するご助言やご協力を賜りたいと考えております。

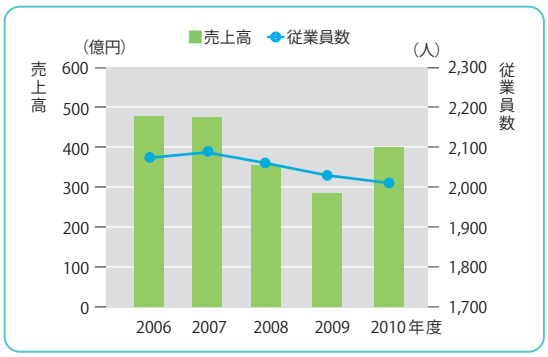
2011年6月
オリエンタルモーター株式会社
取締役社長

倉石芳雄

会社概要

社　名：オリエンタルモーター株式会社
本　社：東京都台東区東上野4-8-1
創　業：1885年
設　立：1950年
代表者：取締役社長 倉石芳雄
資本金：40億円
売上高：398億5千万円（2011年3月期）
従業員：2,006名（2011年3月末現在）

売上高および従業員数の推移



（本報告書の範囲）
対象期間：2010年度（2010年4月～2011年3月）
対象組織：オリエンタルモーター株式会社の国内拠点
＊対象組織が異なる箇所は、その旨を明記しています

事業概要

当社はお客様が求めている「動き」を広い視野でとらえ、最適な駆動システムとして最短のトータルリードタイムでご提供することを目指しております。

AC小型標準モーター、ブラシレスモーター、ステッピングモーター、ACサーボモーター、電動アクチュエータ、ファンモーター、およびモーター周辺機器の開発・製造・販売を行ない、半導体・液晶製造装置をはじめとする生産設備、医療機器、理化学機器、計量機器、事務機器など幅広い業界でご愛顧いただいております。

目　次

01 ごあいさつ・会社概要・事業概要
02 環境方針・環境組織・目標と実績
03 エコデザインへの取り組み
04 環境配慮製品の拡大
05 有害物質管理への取り組み
06 環境負荷データ
07 省エネルギーCO_2低減への取り組み
08 廃棄物削減とリサイクルへの取り組み
09 労働安全衛生の取り組み
10 地域との取り組み

環境方針・環境組織

02

環境基本理念

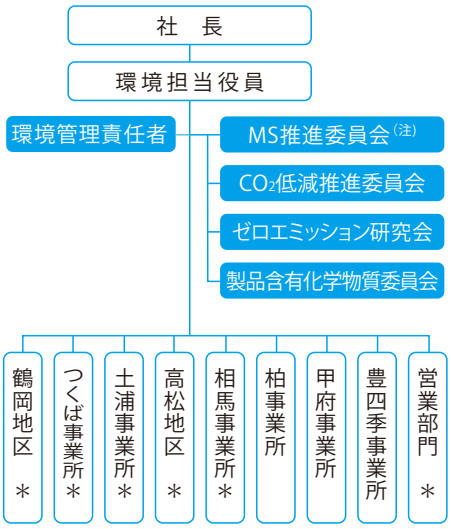
オリエンタルモーター株式会社は地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、「地球環境に優しい企業」を目指して、企業活動のあらゆる面で環境の保全に配慮して行動します。

環境方針

1. 事業活動、製品、サービスが環境に与える影響を把握し、環境課題を定めるとともに定期的に見直しを行い、環境保全活動の継続的な改善を図ります。
2. 全ての活動において、省資源、資源の有効利用、使用エネルギーの削減、廃棄物の削減を推進します。
3. 製品の設計及び製造においては、お客様のニーズを的確に反映させるとともに、省資源・省エネルギー設計、有害物質の削減に取り組み、環境への影響を最小限にとどめる努力を続けます。
4. 環境関連の法律、条例、協定を遵守し、環境汚染の予防に取り組みます。また、社会、地域との調和の向上に努めます。
5. 社員一人ひとりに対し、環境教育、社内広報活動などを実施し、環境課題を遂行できるように意識向上を図ります。
6. 取引先の理解と協力のもと、本方針に沿った事業活動を一体となって展開します。

ーこの「環境方針」は、社内外に開示しますー 制定 1999年8月6日／改定 2003年3月6日

環境組織



(注)MS推進委員会：各拠点のMS管理責任者および事務局メンバーで構成され、QMSとEMSの統合マネジメントシステム改善の検討、全社マネジメントレビューの実施等全社マネジメントシステムの推進を行っています。

＊印はISO14001認証取得

2010年度環境活動の目標と実績

評価基準… 達成 達成率80%以上 達成率80%未満

		2010年度 目標	2010年度 実績	評価	2011年度 目標
エコデザイン	高効率・省資源	高効率・省資源をさらに考慮した商品開発を積極的に実施	計画に対する遅延はあるが、高効率製品の機種拡大は進展		高効率・省資源を考慮した商品の積極的な開発を継続する
エコデザイン	製品含有化学物質の管理	グリーン調達基準に則り、部材の調査を実施 JIG-101Ed3.0(注1)公開に伴うグリーン調達基準の改訂	グリーン調達基準に基づく一斉調査を実施し回答をシステムに登録		JIG-101Ed4.0公開に伴うグリーン調達基準の改訂および改訂の影響を受ける部材の調査
エネルギー使用量の削減		拠点の再編成、生産負荷変動、省エネ機器更新によるエネルギー管理を推進し、売上高原単位2007年度実績からの向上を目指す	計画に基づき照明空調機器等を高効率型に更新、使用エネルギー総量は、前年比9.0%増加、売上原単位は2007年比5.6%向上		計画に基づく省エネ機器更新と夏冬の電力ピーク管理により、エネルギー効率の維持、向上を目指す
廃棄物の削減		拠点間で情報交換しながら、リデュース・リユースに注目した活動を展開し廃棄物の排出を抑制する	総排出量は2955tで前年比417t(16%)増加、改善による廃棄物削減量は6.8tと過去2年平均の約1/8		リデュースリユースに注目した廃棄物排出抑制活動を継続する
リサイクル		より質の高いリサイクルを目指した活動を行う	国内主要生産拠点の平均リサイクル率は99.8%と前年比0.2%向上し、ゼロエミッション(注2)を維持、リサイクルの質では目立った成果なし		国内主要生産拠点の平均リサイクル率は99.6%以上を維持する

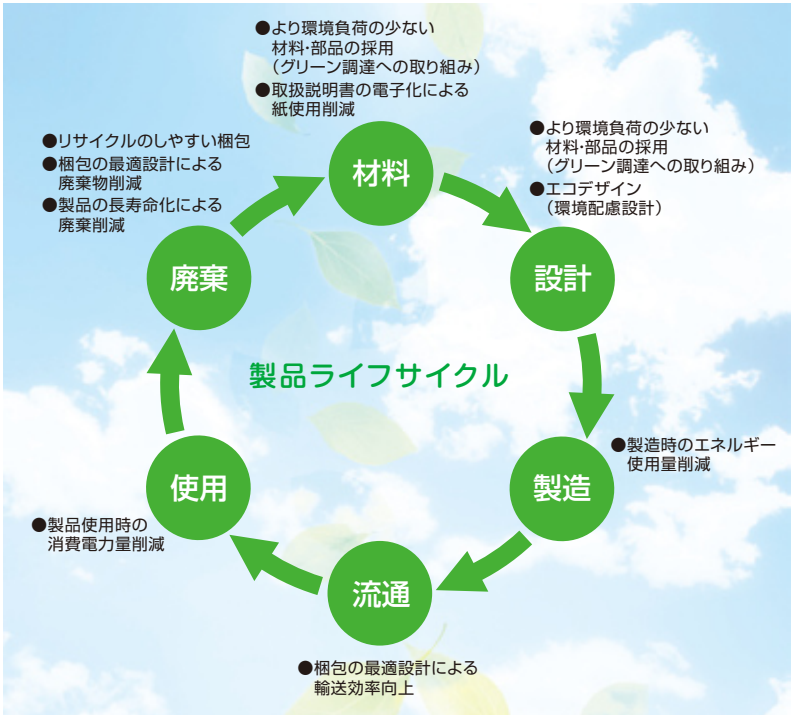
＊2010年度の目標と実績は国内主要生産拠点（鶴岡地区、土浦事業所、つくば事業所、高松地区、相馬事業所、甲府事業所）を対象範囲としています。
但し、エネルギーについては、日本国内のオリエンタルモーターおよび関連会社を対象範囲としています。
＊2011年度の目標計画にあたっては、引き続き年間売り上げ目標を考慮したエネルギーや廃棄物総排出量の数値目標を設定していません。活動目標にて運営していきます。
(注1) JIG-101 はJGPSSI（グリーン調達調査共通化協議会）、CEA（全米家電協会）、DIGITALEUROPEが発行した電気・電子機器製品に関する含有化学物質情報開示のガイドラインです。(JIG:Joint Industry Guideline)
(注2) ゼロエミッション：当社では事業活動に伴い生じる産業廃棄物と一般廃棄物（生活系を含む）のすべての廃棄物(総排出量)を対象とし、そのリサイクル率が99.0%以上の場合「ゼロエミッション」達成としています。

エコデザインへの取り組み

03

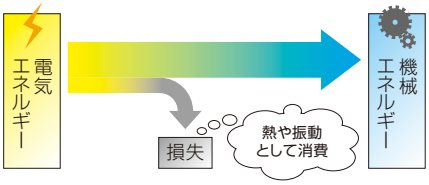
環境に配慮した製品を提供するために、製品ライフサイクルにおいて右の図のような活動を行っています。また、製品設計の企画構想、開発・設計および試作・立上げの過程では、製品アセスメントを実施しています。製品アセスメントは、設計、製造、流通、使用、廃棄の各段階について、省資源化、再資源化、処理の容易化、省エネルギー、製品含有化学物質の管理などの観点から13項目の評価を行っています。

国内外では小型モーターの効率に対する規制や高効率化を促進する動きが広がっています。そこで2010年度は効率の良いブラシレスモーターのラインアップ拡大を進めてきました。



①高効率化による省エネルギー

モーターは「電気エネルギー」を「機械エネルギー」に変換する装置です。
省エネルギー化には、モーターの発生損失を抑えた高効率化が必要です。
今後も国内外の動向を捉えながら高効率化を目指していきます。



IEA(国際エネルギー機関)によれば、産業用モーターの電力消費は世界の総発電量の30～40%を占めるとのことです。エネルギーの安全保障とCO_2の削減にはモーターの発生損失を下げ、効率を上げることが必要です。これらの背景から近年、国際標準として効率等級や損失及び効率の測定方法が以下のように制定されています。

- IEC 60034-30 Ed 1.0：2008 Efficiency classes of single-speed,three-phase,cage-induction motors(IE-code)
（回転電気機械－第30部：定速度, 三相, かご形誘導電動機の効率等級(IEコード）※出力750W以上が対象）
- ISO12759：2010 Efficiency classification for fans
（ファンの効率クラス）※入力125W以上が対象
- IEC/TS 60034-31 Ed1.0：2010 Selection of energy-efficient motors including variable speed applications-Application guide
（可変速用途を含むエネルギー効率の優れたモーターの選定－適用の手引）※ 出力750W以上が対象

2011年7月には中国において小型ACモーターの効率を対象とした国家標準が実施される予定です。

- GB25958-2010：Minimum allowable values of energy efficiency and values of efficiency grades for small-power motors
（小電力モーターのエネルギー効率限定値およびエネルギー効率等級）

②省資源化

製品の小型・高出力化など省資源化により製品のライフサイクルにおける資源の有効利用をはかってきました。また、製品の特徴に合わせ、長寿命化や省配線化なども推進しています。

③製品含有化学物質の管理

グローバルな電気・電子業界の標準に準拠していきます。製品含有化学物質の管理は、電気・電子業界の標準であるJIG-101(注)とお客様の要求事項を考慮したグリーン調達基準により、禁止および管理物質を管理しています。

(注)JIG-101はJGPSSI（グリーン調達調査共通化協議会）、CEA（全米家電協会）、DIGITALEUROPEが発行した電気・電子機器製品に関する含有化学物質情報開示のガイドラインです。
（JIG:Joint Industry Guideline）

環境配慮製品の拡大

04

ここ数年ベーシックな製品で実現してきたエコデザインのコンセプトを、さまざまな機能を持ったタイプの製品へと展開し、お客様がより選びやすく使いやすくなるように努めています。ここにバリエーション展開の例を紹介します。

ステッピングモーターユニット αSTEP ARLシリーズ

ARシリーズの高効率化技術を採用した、お求めやすい価格のクローズドループ制御ステッピングモーターユニットです。モーターもドライバも豊富なバリエーションでお客様のニーズにお応えします。また、消費電力量従来比58%減（当社比）を実現しており、CO_2削減に貢献します。

豊富なバリエーション（すべてのモータータイプに電磁ブレーキ付をご用意）

●モーター

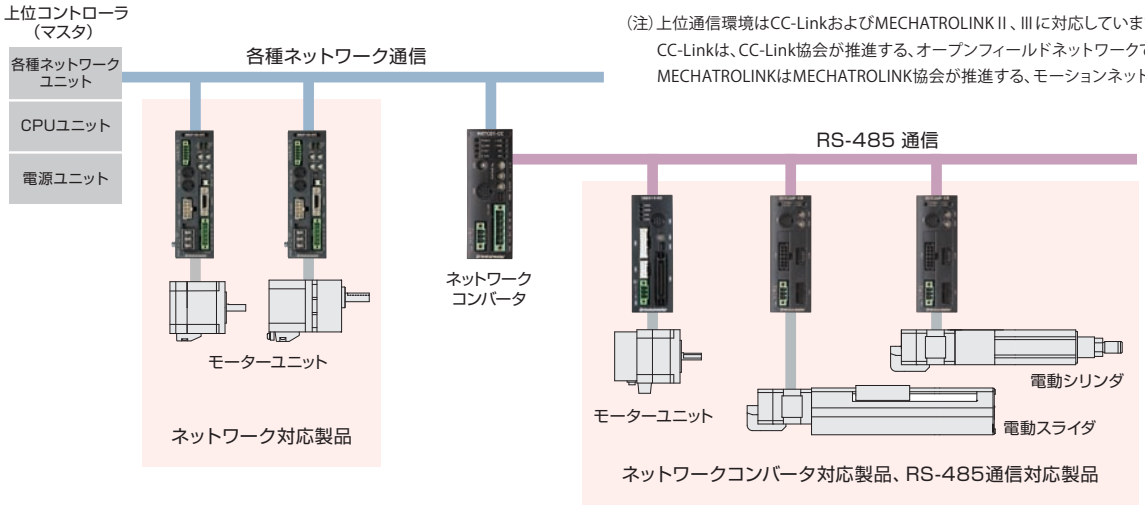
標準　**TH**ギヤード　**PS**ギヤード　**PN**ギヤード　ハーモニックギヤード

●ドライバ

パルス列入力　コントローラ内蔵　CC-Link対応　MECHATROLINK-対応

ネットワークコンバータ

ネットワークコンバータは、上位通信プロトコルから当社独自のRS-485通信プロトコルへの変換器です。これを介することにより、上位通信環境下(注)で当社のRS-485対応製品を制御することができます。ステッピングモーター、ブラシレスモーター、電動アクチュエータなど、さまざまなモーターが同一ネットワーク上で制御可能となるほか、省配線、省資源にも貢献します。



（注）上位通信環境はCC-LinkおよびMECHATROLINK II、IIIに対応しています。
CC-Linkは、CC-Link協会が推進する、オープンフィールドネットワークです。
MECHATROLINKはMECHATROLINK協会が推進する、モーションネットワークです。

ブラシレスモーターユニット BLEシリーズ

小型･高出力で省資源化･省エネルギー化に貢献できるブラシレスモーターユニットです。速度制御用モーターとして多様なニーズに応える機能やバリエーションを、お求めやすい価格で提供します。電磁ブレーキ付をラインアップに追加し、上下方向での高精度で安定した速度制御も可能になりました。

BLEシリーズ

OM talk

東京支社　中村 英里子

環境配慮製品は使っていただいてこそ、その価値を発揮します。家電製品では消費者にわかりやすくエコが示されるようになりましたが、モーターのような生産財でも、お客様によりよく知っていただくことが大事だと感じています。2010年度はプライベート展示会「モーターフェア」と一般展示会、計18回の展示会で、省エネルギー化のご提案をはじめ環境配慮製品のPRをさせていただきました。

有害物質管理への取り組み

05

製品含有化学物質管理

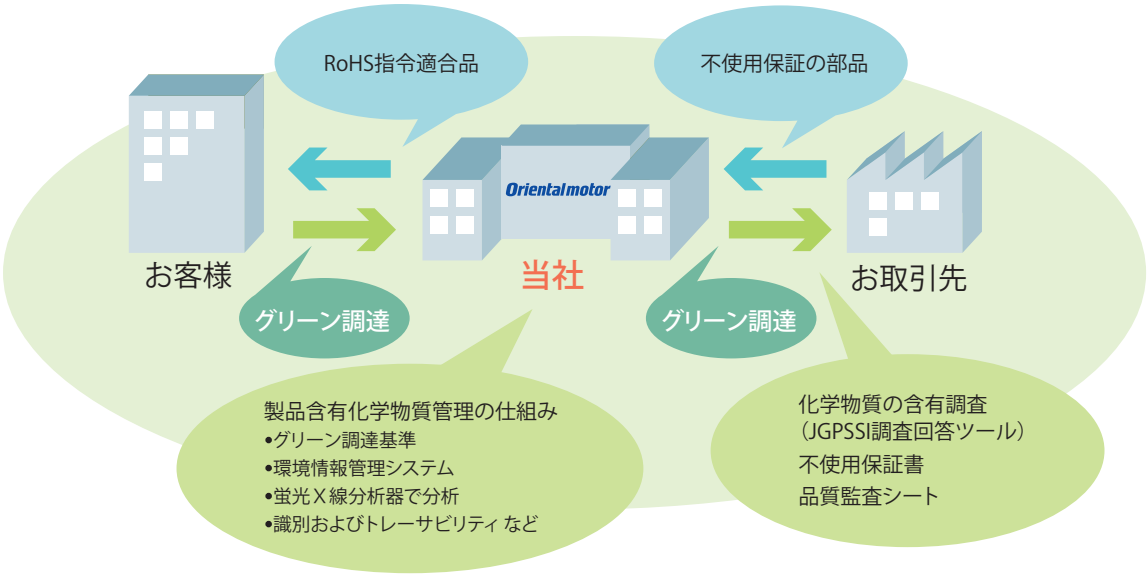
人の健康と環境に悪影響を及ぼす化学物質を適切に管理しようという世界的な動向を背景にさまざまな法規制が施行されています。先行するEUでは、電気・電子機器への有害物質の使用を制限するRoHS指令の改訂で、対象機器カテゴリー拡大が決定され、また、人の健康と環境の高いレベルの保護を目指して化学物質を管理するREACH規則で、認可対象候補物質(SVHC)の追加が予定通り行われています。これらの動きは確実に世界各国の法規制や対応に影響を与えています。

当社では、製品への有害物質の使用を制限することが、地球環境保全の観点から企業の社会的責任であると認識し、2006年よりRoHS指令への適合品を標準品として揃えてきました。

現状の当社のRoHS指令適合品は、RoHS指令の6物質およびREACH規則の認可対象候補物質(SVHC)を含むJIG-101に規定される物質を管理物質としています。

グリーン調達

より環境負荷の少ない製品、部品、材料、包装材等を優先的に調達するグリーン調達に継続的に取り組んでいます。2010年度はREACH規則等あらたな法規制を取り入れたグリーン調達基準に基づき、数万点におよぶ使用部品すべてについて、お取引先に含有化学物質の調査を実施させていただきました。



OM talk

MMC事業統括部　管理統括部　野原 慎一

調査の連鎖のすべての段階で関わっていただいた皆様、ご協力ありがとうございました。計画通りのご回答をいただけたおかげで、当社からも滞りなく情報伝達が行えています。REACH規則の管理対象物質は年々増加し、また物質の分析も非常に困難であることから、サプライチェーン全体での情報伝達が不可欠です。これからもご協力どうぞよろしくお願いします。

化学物質管理システム(CMS)の再点検活動 つくば事業所

これまでに構築してきた化学物質管理の仕組みが、十分に機能しているかを確かめる目的で、JAMP/JGPSSIの「製品含有化学物質管理ガイドライン第2版」(注)に基づいて管理レベルの点検と再評価を行いました。RoHS指令対応を始めて約5年になりますが、改めて現状を精査してみると、いくつかの改善すべき点や、効率化できる点が発見され、仕組みをより確かなものにできました。この活動は2011年に他事業所にも展開します。

(注)JAMP(アーティクルマネジメント推進協議会)とJGPSSI(グリーン調達調査共通化協議会)それぞれの団体が、共通のガイドラインを発行しています。

環境負荷データ

06

2010年度の売上高は前期比136%の398億円でした。売上高が292億円と大幅に減少した昨年2009年度と比べるのは難しいですが、売上高が354億円だった2008年度と比べると、エネルギー使用量は減少し、廃棄物についても焼却埋め立て処分量が減るなどの改善傾向が見られます。

2008年度－2010年度　投入量・排出量データ　拠点合計

INPUT	2008年度
電力使用量（万kWh）	1,971
灯油使用量（kℓ）	307
LPG使用量（t）	227
水使用量（m³）	41,656
紙使用量（t）	37.6
容器包装材（t）	1,008

INPUT	2009年度
電力使用量（万kWh）	1,694
灯油使用量（kℓ）	233
LPG使用量（t）	187
水使用量（m³）	34,843
紙使用量（t）	32.6
容器包装材（t）	767

INPUT	2010年度
電力使用量（万kWh）	1,887
灯油使用量（kℓ）	213
LPG使用量（t）	204
水使用量（m³）	31,330
紙使用量（t）	37.2
容器包装材（t）	982

OUTPUT	2008年度
CO_2排出量（t-CO_2）	12,382
廃棄物総量（t）	2,883
リサイクル量（t）	2,875
焼却埋立処分量（t）	8.4
排水量（m³）	31,712

OUTPUT	2009年度
CO_2排出量（t-CO_2）	10,579
廃棄物総量（t）	2,538
リサイクル量（t）	2,528
焼却埋立処分量（t）	10.4
排水量（m³）	27,210

OUTPUT	2010年度
CO_2排出量（t-CO_2）	9,291
廃棄物総量（t）	2,955
リサイクル量（t）	2,947
焼却埋立処分量（t）	7.3
排水量（m³）	25,903

*電力使用量、灯油使用量、LPG使用量およびCO_2排出量の対象範囲は、日本国内のオリエンタルモーターおよび関連会社です。
*その他のINPUTおよびOUTPUTの対象範囲は、2010年度は下記国内主要生産拠点、2009年度以前は下記国内主要生産拠点プラス柏事業所と技術研究所です。柏事業所と技術研究所は、生産関連セクションが2009年度中につくば事業所および土浦事業所に統合されたため、2010年度は国内主要生産拠点から除外しました。
*CO_2排出量の算出については環境省・経済産業省の「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」を参照しています。
*CO_2排出量の算出には2009年度までは排出係数0.000555tCO_2/kWhを使用し、2010年度は電気事業者ごとの実排出係数を使用しています。

2010年度　国内主要生産拠点　拠点別データ

INPUT	鶴岡地区	つくば事業所	土浦事業所	高松地区	相馬事業所	甲府事業所
電力使用量（万kWh）	522	103	223	158	184	37
灯油使用量（kℓ）	143	0	0	0	0	0
LPG使用量（t）	0.1	0	0.3	0	0	0
水使用量（m³）	16,255	2,741	5,178	3,542	2,977	637
紙使用量（t）	17.9	5.1	4.6	6.1	2.8	0.7
容器包装材（t）	378	357	99	148	0.2	0

OUTPUT	鶴岡地区	つくば事業所	土浦事業所	高松地区	相馬事業所	甲府事業所
CO_2排出量（t-CO_2）	2,798	395	858	645	862	142
廃棄物総量（t）	1,352	52	180	466	898	8
リサイクル量（t）	1,350	52	180	466	893	8
焼却埋立処分量（t）	1.5	0	0.4	0	5.1	0.1
排水量（m³）	14,037	2,604	2,530	3,299	2,828	605

省エネルギー CO_2 低減への取り組み

07

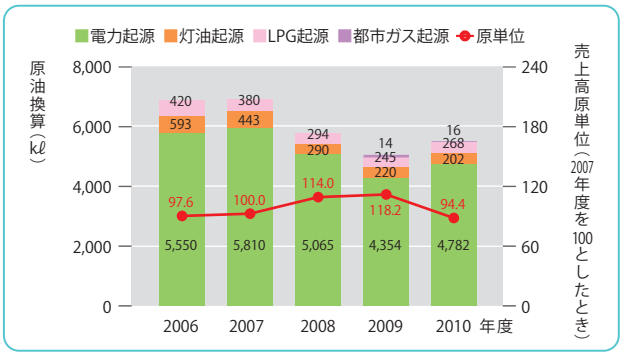
エネルギー使用量とCO_2排出量の推移

2010年度のエネルギー使用量は、生産量の増加に伴い原油換算値で5,268kl、前年比109%となりました。ただしエネルギー使用効率で見ると、2007年度を100とした場合の売上高原単位は94.4となり過去5年間で最良の値になりました。これは、事業拠点、製造拠点の再編、省エネ設備の導入および全社員の省エネ活動によるものです。2010年の夏は記録的な猛暑でしたが空調運転管理の徹底によりエネルギー使用の増加傾向を緩和できました。

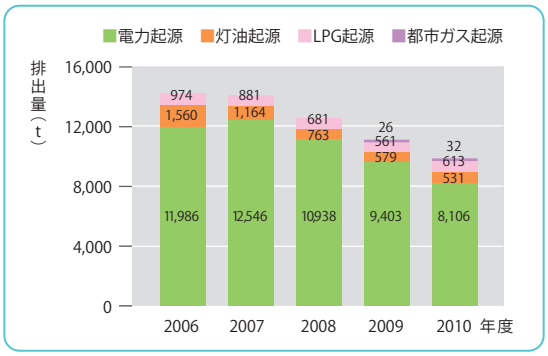
CO_2排出量は、9,291t-CO_2となりました。大きく減少していますが、法に従い地域ごとに各電力会社の実排出係数を採用して算出したことによります（2009年度までの値はすべて係数0.000555tCO_2／kWhを採用）。

2010年は省エネ法の特定事業者の指定を受けて法定報告を行いました。

原油換算と売上高原単位の推移



CO_2排出量の推移



建物と空調照明設備の更新

2009年度に中断していた建物への省エネ投資や空調・照明設備の省エネ機器への更新を、2010年度は中長期計画に基づいて実施することができました。

土浦事業所の第１工場棟では、空調・照明設備の更新、断熱塗装、ペアガラスの採用等のほか、電力監視装置の整備を行いました。柏事業所では、空調機器の全面更新、照明機器のインバータ化を実施しました。

土浦事業所第１工場棟

プレス棟の照明改善 相馬事業所

プレス棟は、大型の機械や鋼材などの資材による占有面積が広く、常時作業をする人数の少ない職場です。この職場の特性を考慮して照明の省エネ改善を行いました。

高い天井に埋め込まれていたメタルハライドランプを減らし、作業者の周辺を効率的に照らす低い位置に蛍光灯を設置しました。また、プレス機を取り囲む広い防音室の点灯スイッチはこれまで１系統で全点灯となっていましたが、これを2系統に分けて、照明の必要がないエリアの消灯ができるようにしました。これらにより6.4t/年のCO_2削減効果が見込まれます。

新たに設置した蛍光灯は人感知センサーで無感知後10秒で消灯

スイッチを2系統にすることで不要な照明を消灯

省エネルギーセンターによる『省エネ診断』を実施 生産技術研究所

生産技術研究所には、使用エネルギーが高い設備が多くありますが、省エネ診断の結果、炉の断熱強化やコンプレッサーの吐出圧力見直し、加工設備のモーター出力見直し、室温の運用管理や建物内の間仕切りの検討など、今後の活動につなげていけそうなアドバイスを多数いただきました。

OM talk

オリエンタルモーターテック　酒巻 明彦

経験豊富な専門家の目で省エネポイントを解説してもらえること、所内の省エネ意識を高めていきたいということから、省エネ診断を受けました。今後は、アドバイスを参考に、所内全員で活動していきたいと思います。

受配電設備周辺での診断の様子

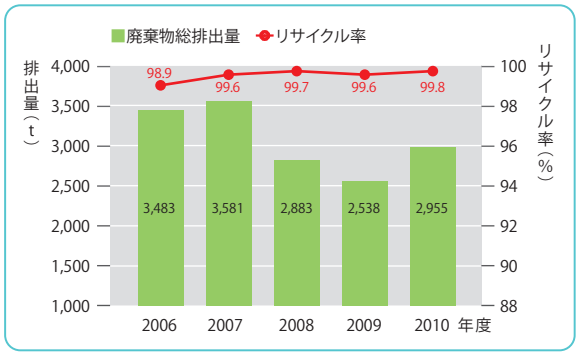
廃棄物削減とリサイクルへの取り組み

08

廃棄物の総排出量とリサイクル率の推移

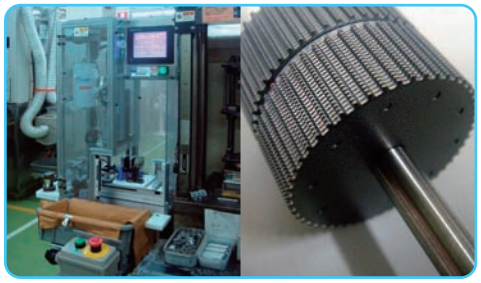
2010年度の廃棄物の総排出量は2955t、前年比116.4%となりました。増加要因は生産量の増加ですが、工程での資源の節約や廃棄物の有価物化の活動などの積み重ねで、少しずつですが廃棄物量の抑制を続けています。2010年度の改善による廃棄物の削減量は6.8tとなりました。また、国内主要生産拠点のリサイクル率は99.8%でゼロエミッションが維持できています。

国内主要生産拠点の廃棄物総排出量とリサイクル率の推移



ローター組立工程での接着剤塗布量の削減 高松地区

接着剤の塗布をディスペンサ式に変更し、製造ラインあたりの接着剤使用量を約40%削減することができました。従来方式では、ローターカップとシャフトそれぞれに接着剤を塗布し、組み付け後に余分な接着剤を取り除いていました。ディスペンサ式では、シャフトの適切な位置に管理された適量の接着剤を塗布して両側からローターカップを組付けることで、より安定した品質を維持できるとともに、余分な接着剤は発生しなくなりました。



ディスペンサ（液体定量吐出装置）　完成したローター（モーター回転子）

PCB廃棄物を処分しました 高松地区

PCB特別措置法に基づき長年保管してきた有害なPCB廃棄物を処分することができました。

高圧コンデンサ2台、蛍光灯安定器85kg、専門業者により日本環境安全事業株式会社の北九州事業所に運ばれ、無害化処理されました。

高圧コンデンサの積み込み

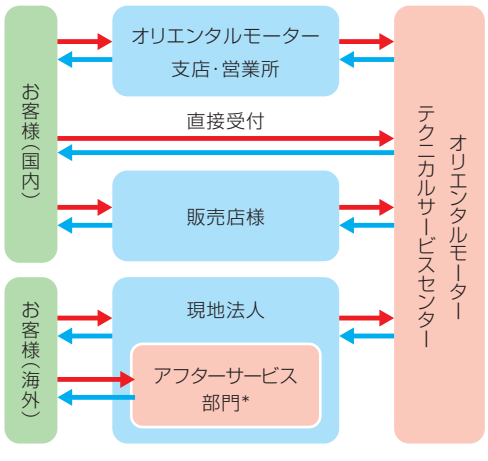
より長く安心して製品をお使いいただくための活動 アフターサービス部門

アフターサービス部門では、ご購入いただいた商品をより長く安心してお使いいただけることが、資源の有効活用、廃棄物の削減につながるという意識を持って、サービス向上に取り組んでいます。

検査・修理を担当する「テクニカルサービスセンター」も、日本全国を無料で訪問しお客様と一緒に問題の解決に努める「フィールドサービス」も、どちらもお客様とのコミュニケーションを大切にしながら迅速なサービスを目指して活動しています。海外でのサービスにつきましても、日本と同等のサービスを目指して、共通の検査治具を展開し、現地に専門技術者を派遣して教育を行い、業務のレベルアップを図っています。

サービスの提供を通していただいた、ご意見、ご要望、修理品の情報などは、収集・分析し、お客様の視点での商品開発や、カタログ、取扱説明書、サービスの改善にフィードバックしています。

国内・海外の検査・修理サービスの流れ



＊一部製品は日本での修理となります。

→修理依頼
←検査結果、検査・修理完了品

労働安全衛生の取り組み

09

当社では、安全で健康な「人に優しい企業」を目指して、全員参加で労働安全衛生活動に取り組んでいます。従業員の安全と健康が信頼性の高い製品を提供する企業活動の基本と考えています。

職場と安全衛生委員会が中心となり以下のような活動を行っています。

労働災害低減のための活動

各職場では危険予知活動を行うと共に ヒヤリハット改善活動などで災害が起きる前に、その芽を摘み取り安全職場を築く活動を行っています。

また設備については危険や有害要因を見積もり、評価し、そのリスクが労働者保護の立場から容認できないレベルのものについて改善し、本質安全化を図っています。リスクアセスメントが完了した設備については標章を貼ってわかるようにしています。

ヒヤリハットに対する検証改善活動
高松亀水事業所

作業環境改善活動

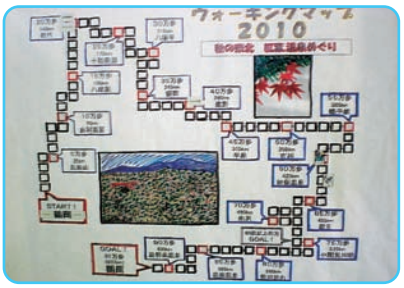
各職場で使用する化学物質について、その物質により発生する負傷または疾病の重篤度、可能性のリスクを見積もり、容認できないレベルのものについては代替物質の検討、保護具着用、作業方法や作業環境の改善を進める活動を行っています。

リスクアセスメント完了標章

健康的な生活を送るための活動

毎年ウォーキング活動を行ってきましたが、従来は活動が低調だった車社会の地方でも、目標数値や取り組み方法の工夫などで参加者を増やすことができました。結果2010年度は全社で約1200名の参加となり、毎年の健康増進行事として定着しました。

また生活習慣病に対する啓蒙活動や、社員食堂でのヘルシーメニューの提供等も継続しています。



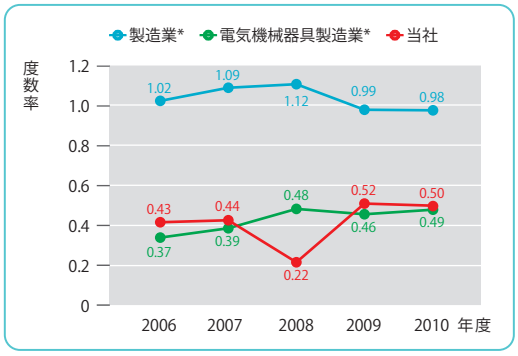
ウォーキングマップでの活動盛り上げ
鶴岡中央事業所

交通安全活動

全拠点に対する交通安全情報の配信、危険予知や交通安全テストなどによる運転のレベルアップ、事業所や販売部門での交通安全講習会などを通じて、業務や通勤時の交通事故防止をはかっています。

京都支社での交通安全講習会

労働災害度数率推移



＊厚生労働省発表値

ここ数年、腰痛災害が多い傾向にあり
その対策を行なっています。

地域との取り組み

より豊かな社会の実現に向けて、地域と一体になって幅広い活動を展開しています。

庄内支庁で「省エネパトロール」を実施 鶴岡地区

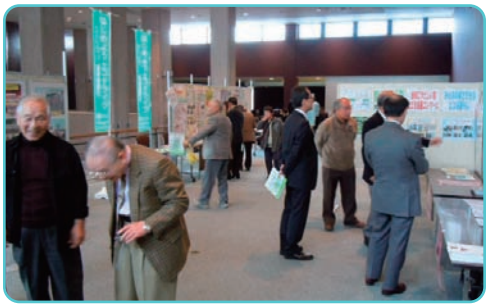
山形県からの依頼で、「庄内環境マネジメント研究会」の3企業が合同で、庄内支庁庁舎内をパトロールし省エネ診断を行いました。県は省エネ活動を推進する立場にあり自らも活動を行っていますが、第三者の目から見たアドバイスを求められ今回の活動が実現しました。

現地パトロール風景

診断結果ミーティング

「大好きいばらきエコチャレンジ2010」に参加 つくば事業所

CO_2低減活動として全員参加で行っている『MOTTAINAI活動』(モッタイナイ活動)の中から、照明やOA機器、生産設備などの機器別の電力測定に基づいた待機電力削減や、広範囲の空調温度設定を温度モニター係とのコミュニケーションをとってきめ細かく制御する活動などを紹介し、「茨城県地球温暖化防止活動推進センター長賞」を受賞しました。



発表会後の取り組み事例交流会

ボランティア活動

2010年度も各地で地域清掃活動をはじめ計21回の活動に参加しました。

柏市ごみゼロ運動

相馬市馬稜公園お堀浄化作戦

つくば市TXきれいなまちづくり大作戦

鶴岡市スポーツごみ拾いin庄内

高松市下笠居地区クリーン作戦

オリエンタルモーター株式会社

〒110-8536　東京都台東区東上野4-8-1
ホームページ　http://www.orientalmotor.co.jp

環境報告書についてのお問い合わせ先
環境品質マネジメント部
TEL.(029)848-2172　FAX.(029)848-2215
メールアドレス　eco@orientalmotor.co.jp

発行／2011年6月